デジタル版
2025年
07月03日号
Vol. 165

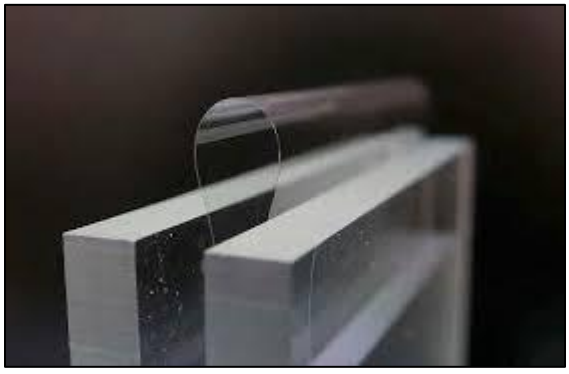
成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

日本電気硝子が折れ曲がる極薄のガラスを開発！

日本電気硝子（本社滋賀県）は極薄で折り曲げられるガラス（フレキシブルガラス）の開発に成功し、市場開拓を積極的に推進している。主な用途は折りたためるスマホ。薄さと丈夫さを売りに、新しい用途の開拓に積極的に投資を行っている。

＜解説＞日本電気硝子は2000年代から薄型ガラスの開発に乗り出し、2005年に厚さ0.1ミリ以下のフィルムに近い極薄のガラスの開発に成功した。2020年には独自の成型方式により厚さ0.025ミリ（25マイクロメートル）で、衝撃耐性や光の透過率を向上させた化学強化専用ガラスを開発した。オーバーフロー成型という独自の方式を確立し、表面の円滑性に優れた当時としては業界での最も薄いガラスの開発に成功した。半径1ミリまで折り曲げることができる。ターゲットにしている用途は、折りたためるスマホのカバーガラス。韓国のメーカーが先行しているが、今後の需要予測では2030年に8兆円を超えるという試算もあるくらい、今後の市場の伸びが期待されている。



このガラスは、昨年度米国モトローラ社のスマホに日本メーカーとして初めて採用された。今年の新しい機種にも搭載されている。そのため、日本電気硝子は台湾の工場に新しい生産ラインを増設した。世界的にみると、折り畳み式スマホのカバーガラスのシェアは米国、ドイツの2大メーカーがほぼ独占している。3番手の日本電気硝子は中国市場にターゲットを絞り、中国メーカーの市場を100％独占する戦略を立てている。すでに、いくつかの新機種への搭載も決まり、確実にシェアのアップが図られている。液晶や有機ディスプレイの市場は、家電やパソコンの需要の伸び悩みを反映して停滞気味。今後市場の伸びが期待されるのはスマホ市場と目論んでいる。さらに、宇宙事業（人工衛星への搭載）や太陽電池（ペロブスカイト電池）などへの応用も可能性がある。事業ターゲットの入れ替えでポートフォリオを見直し、さらなる飛躍に結び付けられるか。欧米との競争に勝ち抜くには、コストダウンと同時並行で、製品のクオリティのアップが欠かせない。この矛盾した要求をどう実現するのか。まさに技術陣の革新が求められている。今後、同社は本社を京都市内の京都駅近くに移転する計画だ。一層の飛躍が期待される。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.